



副会長 森 多紀夫さん 会長 南谷 富雄さん

Interview

通学路の安心・安全に携わる地域の方 「松枝ふれあいたい」

「松枝ふれあいたい」は、登下校時の見守り活動を中心に、子どもたちの健やかな成長や地域の安全を願って、日々活動しています。

活動の原動力は何といっても子どもたちが成長する姿を間近で見守ることができること。小さな声でしか挨拶できなかった子が、元気に挨拶を交わせるようになったり、名前を覚えて声をかけてくれるようになったりする様子を見てみると「明日の朝も見守りに行かないと！」と励みになります。それに、毎朝見守り活動があるおかげで、生活リズムも整って張り合いがありますね。

そんな可愛い子どもたちの小さな命を守るため、新学期を前に、ドライバーの皆さんには改めて安全運転をお願いしたいです。特に、大きな道路では、横断歩道を渡るうとする子どもがいてもスピードを落とさず通過していく車を見かけます。少しの気の緩みを取り返しのつかない事故にならぬよう、私たち大人が率先して交通ルールを守りたいですね。

「松枝ふれあいたい」では、これからも安心・安全な地域づくりに貢献していきたいと思っております。一緒に活動してください。仲間も大歓迎です。興味のある方はお気軽にお問い合わせください！

■松枝小学校
☎3388-2551

安全運転に 引き続きご協力を!

— 令和2年の交通事故を振り返って —

笠松町内での交通死亡事故件数

0件(※0件は、平成25年以来5年ぶり)

居住市町村別 交通事故第1当事者(※)の割合(人口千人あたり)

ワースト4位/42市町村(令和元年) → ワースト9位/42市町村(令和2年)

※交通事故に関わった人の中で最も過失が重い人

居住市町村別 運転免許行政処分者の割合(人口千人あたり)

ワースト1位/42市町村(令和元年) → ワースト10脱却!(令和2年)

高齢ドライバー による交通事故は依然高止まり傾向が続いています

町や岐阜県警察では、運転免許証返納者や高齢ドライバー向けの支援策を展開しています。運転に不安を感じた際などには、お気軽にご相談ください。



▲【笠松町】運転免許証
自主返納者への支援事業



▲安全運転相談
ダイヤル(#8080)



小さな命を守る

あなたの安全運転

新学期が始まって間もない4～6月は、子どもの交通事故が増える傾向にあります。新学期のスタートを前に、大人も子どもも交通安全の意識を高め、安心・安全に通学できる環境づくりに努めましょう。



横断歩道で歩行者優先 実践できていますか？

昨年、笠松町内で発生した交通人身事故は36件で、時間帯別では通勤・通学時間帯である午前7時～8時の発生件数もつと多くなっています。新学期には、通学に慣れていない子どもたちの登校も始まるため、運転にはより一層の注意が必要です。

特に、ドライバーには横断歩道で歩行者を優先する義務があり、違反すると反則金や違反点数が科せられますが、信号機のない横断歩道を歩行者が渡ろうとしている際に一時停止する車の割合は、全国平均で約2割。岐阜県は全国平均を下回っている状況で、歩行者優先の意識不足がうかがえます。横断者が小さい子どもの場合は、見過ごしてしまいう可能性も高まるため、横断歩道付近では走行速度に十分注意しましょう。

家庭でも交通ルールや 通学ルートの確認を

新学期を前に、交通ルールや通学ルートを各家庭で確認することも交通事故防止に効果的です。

昨年の笠松町内における交通人身事故36件のうち、自転車絡み事故は7件で、その割合の高さから、笠松町は自転車事故の多い地域といえます。特に、15～19歳の方が運転する自転車事故に遭う割合が高い傾向にあるため、自転車を安全に利用するための交通ルールをおさらいしてみることがおすすめです。

また、小さいお子さんがいる家庭では、道路横断時の「止まる」「見る」「車が止まっているのを確かめる」の習慣づけのほか、通学ルート上の



横断歩道は歩行者優先です!!



岐阜羽島警察署 交通課
加藤 優弥 巡査長

信号機や横断歩道、道路標識を親子で確認する機会をぜひ設けてみてください。

みんなにとって 安心・安全な通学路を

昨年、県下で発生した交通死亡事故は42件、犠牲者は43人で、その約4割は歩行者や自転車でした。この数字からも、歩行者や自転車絡み事故は高い確率で死亡事故に繋がることが見とれます。

大人も子どもも、安心して通勤・通学できるよう、双方が交通ルールを守り、交通事故のない地域をめざしましょう。